

第49号
 発行日：平成23年5月10日
 発行所：
 東京青山同窓会事務局
 〒107-0062港区南青山
 3-18-4-304
 (有)ジェイ・クラブ内
 TEL. 03-3423-3591
 発行者 池 一

東京会報

東京青山同窓会

－東京青山同窓会年間維持費－
 1口 / 1,000円 2口以上(年間)
 会計幹事：佐藤 茂 (77回)
 振込先：三菱東京 UFJ 銀行・
 江戸川橋支店
 普 1170247 東京青山同窓会
 郵便振込口座 00150-9-4074

平成 22 年度 東京青山同窓会総会 報告

平成22年11月12日(金) 於：ANAインターコンチネンタルホテル東京 西巻政信・89回

東京青山同窓会総会に、初めて参加して

2010年11月12日、東京青山同窓会の当年度総会が、赤坂で開催された。出席者は計92名。この日は、温暖化に伴う昨今の高い湿度もなく、仕事帰りにジャケットを羽織ったまま出席するのに最適な天候だった。

今年の司会も、74回の工藤義夫氏である。森田健作(現千葉県知事)にも通じた爽やかさを彷彿させる口調で、午後6時30分、本総会がキックオフ。本同窓会会長の猪口孝氏(70回)の到着が公務で遅れたため、急遽、新潟高校の現校長、大滝祐幸氏のスピーチから開始されることになった。

本校は昨秋、北信越大会(野球)まで進出し、今年の選抜高校野球大会の「21世紀枠」に推薦されることが、ほぼ確実視されていたものの、残念ながら選に漏れてしまったとのこと。しかし、書道大会や医学部への進学率において、全国有数の高い実績を残し、さらには、米国や中国の提携校で生徒を学ばせることができ、海外体験プログラムが順調に機能している等々…。

私事で恐縮だが、小生は、現在の仕事の絡みで大滝均氏(74回)と偶然接点ができ、それをきっかけにして本同窓会へ加入したばかり。テーブル席に座っていても、居心地が悪い。少し緊張しながら校長先生の話を拝聴しているうちに、一瞬、頭の中は、自分の高校時代へとタイム・スリップしていた。

そして、猪口会長が到着。現実に戻された。会長によると最近、「日本の大手企業が、日本人の新卒者を採用しなくなっている」とのことである。日本の若者は、英語を含む外国語が苦手。また、1つの例であるが、就職活動で「日本の民事訴訟法を勉強してきた」とアピール

するらしい。海外の法律に関する知識が求められているこの時勢において、これでは世界に通じない。

これに対し、外国人の若者は、自分の母国語に加えて日本語を話し、英語も堪能であるという。これだけでも、“総合得点”において、日本の若者は及ばない。本邦企業が、生産拠点に加え研究開発の拠点を海外へシフトしていることもあって、外国人の若者の採用実績が増えている。

要するに、日本人が「内向き」過ぎる。萎縮している」ということ。「日本人には、貪欲さ、海外への適応性、そして、挑戦する勇氣・力量が求められている。筋肉と同じで、頭も使わなければ強くない」(同会長)。

全く同感である。たまたま小生は、この3ヶ月間で、これに類する話を2回ほど聞いている。最初は、電気・化学といった主要分野の技術流通(特に特許流通)に詳しい人からの説明。もう1回は、大手証券会社を取材先としている筋からの話だった。

小生が知る限り、多国籍を気取る欧米の企業においても、本体(持株会社など)における役員は、その本体が設置されている国の出身者がほとんどで、とても「外向き」とは言い難い。しかし、そんな連中でも、自社の商品を海外の市場で販売し、それらの市場を「支配する」ことに関しては貪欲だ。日本は、敗戦を経て、海外の国家に対する征服欲を消失したが、多分この15年くらい、ビジネスにおいて外国の市場の「覇者でありたい」という欲求までもが萎えてしまっている。このような「去勢状態」では、野心あふれる中国人や韓国人に勝てるはずもなからう。

さて、この度の総会では、新潟本体の青山同窓会の会長、長谷川義明氏(61回)も、来賓として出席されていた。本校は、2012年に創立120周年を迎えるため、新しい名簿の作成や、多くの記念事業を計画しているという。

以上をもって、本総会は終了。そのまま、第2部の懇親会へと移行した。乾杯の音頭は、本同窓会の名誉会長、栗林貞一氏(59回)。その後、今回幹事を担当された74回有志による当時の白黒スライドの上映や、小林史佳氏(101回)による津軽三味線の名演奏、校歌斉唱、そして応援歌『ますらお』のシャウトへと続いた。

小生が本校に入学した頃は、ビリー・ジョエルの『素顔のまま』がヒットし、卒業の直前には、ジョン・レノンの『スターティング・オーバー』が流行っていた。前者の曲はグラミー賞を受賞し、後者の曲は、この元ビートルズを見舞った悲劇によって、スタンダード・ソング入りを果たしたが、本校の『ますらお』は、入学後の応援練習でみっちり「仕込まれて」から、同期生のスタンダード・ソングであり続けている。

学期の始業式や終業式では、どの学校でも校歌を歌うのが当たり前。しかし、小生の時代は、校歌を本来斉唱しなければならぬ時においても、勝手にブーイングして『ますらお』を歌い、ほとんど校歌を斉唱した記憶がない。そのような我儘が通った当時も当時だが、そんなこともあって、小生は校歌が上手く歌えない。実際、この度の懇親会でも「口パク」が多く、少し気まぐらかった。

さて、本懇親会もお開きが近くなり、出席者全員で記念撮影をする頃には、小生も酔いが回って自分が記録担当であることを忘れ、はしゃいでいたが、一瞬、「こういつた同窓会こそ正に、日本人が「内向き」になっていることの証拠ではないか」との思いが頭をよぎった。そう揶揄されないためにも、同窓会というものは、ビジネスなど横の連携につなげていくべきなのであろう。



東京青山同窓会2010総会
 「第2部」
 「団塊の世代」の青山
 (青陵祭、団体地震肥)
 74期演出



平成 21 年度決算報告および 22 年度予算
 (H22.11.12)

収入の部		単位：千円	
	21年度決算	22年度予算	備考
前年度繰越金	1,044	782	
年会費	1,534	1,700	900名
総会会費	525	800	100名
新人歓迎会・講演会費	773	800	110名
本部補助金	500	500	
雑収入	19	10	
合 計	4,395	4,592	
支出の部			
費 目	21年度決算	22年度予算	備考
総会費	895	900	
新人歓迎会・講演会費	1124	1,100	
事務局費	90	100	
会議費	36	50	
通信費	897	900	
印刷費	494	1,100	会報2回発行、振込用紙
振替手数料	76	80	
次年度繰越金	782	362	
合 計	4,395	4,592	

注：21年度 H21.10.1～22.9.30
 22年度 H22.10.1～23.9.30

会長挨拶

猪口 孝 70回



新潟高校卒業生のみなさん、東京に歓迎します。今春は3月11日の大地震を受けて大変な春でした。直接間接にほとんど皆が何らかの形で大きな影響を受けられたと思います。心よりお見舞い申し上げます。とりわけ東京にできて

から、慣れないところで毎日の生活を送ることが大きな試練になっていると想像します。

世の中は空前の不況だったところに、この地震と津波そして原発事故と泣き面に蜂です。放射能の問題に加えて、電気と交通の不便さはしばらく続くのではないのでしょうか。でもみなさん。これも人生です。いつどのようなことが起ころうとも、克服しようではありませんか。

大学では被災者には検定料、入学金、授業料などを免除する動きが強くなっており、生活費そのものも大変な額になるわけで、なんとか支援したいとおもっております。私も直後、ニューヨーク・タイムズから依頼を受けて、「日本の大

震災支援は伝統的な災害支援が通用しないところがあるのではないか。どのような支援が機能すると思うか。」というデベイトに参加しました。3月15日に載っています。

<http://www.nytimes.com/roomfordebate/2011/03/15/what-aid-makes-sense-for-japan/after-japans-earthquake-instill-hope> を見てください。

どういう支援を提案したかという、親や兄弟を失った若者に希望を与えることです。英語では Instill Hope in the Young です。心理的にも財政的にも大変な一人ぼっちの若者を助ける一つの手段はさらに勉強を追求できるようにすることです。とりわけ外国に留学して、外国語やその他の不可欠なことを学んで強く人生を生きることです。私がみなさんに全く同じことを繰り返したいと思いません。Instill Hope in the Young!

東京61期同期会

木田 満洲男

平成22年6月4日(金)午後5時から、東京青山61期同期会(S28年卒)を浜松町のアジュール竹芝で開催しました。

本会は33年も連続しておりますが、これは希有なことではないかと思えます。

我々の世代は、小学校1年から5年にかけて戦争の渦中にあり、終戦の前後

には食うや食わずの生活を送り、中学校入学の際には、制定されたばかりの6・3制の適用を受け、併設中学というのも経験しました。ようやく平和が戻ってきた高校時代は、貧しいながらも、良き先生・仲間にも恵まれて自由闊達な学生生活を楽しみ、大学へ進学し、卒業した昭和32年が丁度日本経済の高度成長のスタートにあたり、以降40年余り、日本を世界有数の経済大国に引き上げる牽引車的な役割を果たすなど、激しい

変化の時期を乗り越えてきました。

このような経験の共有と誇りが、我々同期に強い絆を与え、この会が長い間続く要因になっているのかと思えます。

当日は、ご高齢にも拘わらず至ってお元気な恩師大橋偵助先生が新潟から参加して下さったほか、計39人が出席しました。

男子校だった新潟高校に、当期から初めて入学した女子9人のうち伊藤英子さん、岩石浄さん、竹内悦子さん、和田照子さん(いずれも現姓)の4人が参加し、盛会に華を添えてくれました。

新潟から来た小杉秀一君から沢山の新潟銘酒が、また秋田在住の長沼雄峰君からは秋田銘酒の差し入れがあり、会は大いに盛り上がりました。

当日所用で欠席した青山同窓会会長・前新潟市長の長谷川義明君に代わって、小杉君から新潟の近況報告があり、また風間博君から応援歌の歌詞に関する調査結果の説明があった後、しばし歓談に、食事に楽しいひと時を過ごしました。

最後は恒例となっている校歌や応援歌を、当期が誇る2人の美声リードボーカル江口良助君、草間光俊君の音頭で全員が肩を組んで放吟し、午後7時半に散会しました。

今回は新潟・東京合同の「喜寿の同期会」を越後湯沢で開催する予定です。



3.11 震災取材報告

高橋 渉 97 回

3月11日午後2時46分、国内観測史上最大のマグニチュード9.0の激震が襲った。新潟日報本社報道部の私は同日夕、東日本大震災の被災地に向け車で出発した。

雪が降りしきる中、山形市内は停電。山形で一泊し翌12日早朝、仙台を目指した。国道の損壊はほとんど無かった。2004年の中越地震の時も地震初日から長岡市で取材したが、道路が各地で寸断され被災地になかなかどり着けなかった中越とは違った。

仙台市中心部の被害は軽微だった。巨大津波で多くの人が犠牲になった同市若林区荒浜地区に向かう。一面が泥と、流された家の残骸で覆われていた。「みんな津波で流された」。集落を見つ

めつぶやく被災者がいた。中越地震では山が動き、東日本大震災では海が動いた。

1週間後の18日、再び被災地に入った。仙台市の避難所脇では赤ちゃんを抱え、夜泣きで迷惑を掛けたくない避難所に入らず車中泊をする親子がいた。中越地震と変わらない姿だった。

県内には現在、福島県など他県から多くの被災者が避難し、体育館などで不自由な避難所生活を続けている。徐々に公営住宅などへ移る人もいるが、本紙の調べでは、県外からの避難者は個人宅に身を寄せる人を含め3月末には9千人を超えた。福島第1原発から半径20～30キロ圏内に住み、自主避難となっている南相馬市の人が多い。

中越地震の時、阪神淡路大震災の被災者や関係者が本県に多く駆け付け、教訓を伝えてくれた。「中越では仮設住宅に集落ごと移り、コミュニティーを維持できた」「車中泊により発生したエコノミークラス症候群を今回は防ごう」。今度は本県の被災者や自治体が、中越地震で得た教訓を伝えようと、東北地方で活動をしている。

中越地震では68人の命が奪われ、最大10万3178人が避難所に避難。避難所生活は最長2カ月、仮設住宅での暮らしは3年にも及んだ。

東日本大震災の被害は、中越地震と比べ甚大で広範囲に及ぶ。国は震災後5カ月で6万戸の仮設住宅建設を目指す。建設は遅れ避難所生活の長期化が予想される。さらに目に見えない放射能への不安が被災者を苦しめる。

新潟日報社に入社し18年目となった。2005年、2006年と2年連続で中越地震をテーマにした本紙長期企画に関わった。中越地震で全国各地から支援を受けた地方紙の記者だからこそ、東日本大震災の被災者、そして本県に避難している人たちに伝えられることがあると思う。長丁場の取材になるが、自分に何ができるのかを問いかけながら、今後も被災者に寄り添っていきたい。

写真・記事：新潟日報社報道部・高橋渉(写真転載禁止)



3月19日、仙台市若林区荒浜地区



3月19日、岩沼市の仙台空港



3月20日、塩竈市

玲瓏会2010秋季大会報告

(東京ゴルフ会) 幹事: 遠藤 治一 64回

2010年10月7日(木)、平塚富士見カントリークラブで総勢14人の参加を得て、賑やかに、和やかに、楽しく行われました。生憎くコースの名物景観、富士山の麗峰は雲に覆われて姿を隠しておりましたが、恙無くプレーが行われました。

結果は、68期村山隆男さんが、なんと四連勝を飾りました。ダブルペリアによる四連勝!! これを如何に受け取るべきか? 何とも、言い様がありません

ん。準優勝は、65期丹羽直彦さん。BBは、64期の高橋正幸さん。不肖幹事は、BMに沈みました。余興賞: ドラコン・ドラタン/ No.5 (中谷・村山健) No.18 (丹羽・市川倫) ニアピン/ No.6、8、12、15 (高橋・竹尾・村山隆・安宅) の諸氏。

今回は、玲瓏会の一大勢力である、68期軍団の参加が、代表の村山隆男さんのみでしたが、61期の元気軍団の多勢参加を得て、盛会裡に終わりました。他の期も、積極参加が出来るには、如

何したのか、思案するところですが、新潟中学校創設120周年の記念行事が、来年に予定されている由。

今年が、120周年に当たるのですが、先ず、同窓会名簿を整備を本年中にを行い、来年に行事をとの段取りと、新潟の同期幹事から説明がありました。こうした行事を契機に、玲瓏会の名簿整備も進捗すればと願っています。

不肖幹事(64期)の関屋中学の先輩で、同校第一期生、61期竹尾さんから、中学同期生に女子生徒が居なかったと、一緒にラウンドしながら聞かされて、太平洋戦争敗戦直後の学制の変化、変革、をヴィヴィッドに実感しました。61期の関中グループの結束の固さの理由にも、納得がきました。

すでに、半世紀以上も昔のことになりながら、男女共学制が、日本新生の象徴の一つとして、喧伝されたのは知っていても、校舎も準備なく、制度施行のみが先行した結果、共学制の実が伴っていなかったことを、僅か三年後輩は、今日まで、知りませんでした。

こうした史実を実感できるのも、同窓の集まりの大きな醍醐味かと思えます。玲瓏会が、末永く、発展、継続していくことを願うものです。



梓会出版文化賞受賞報告

西村書店 西村正徳・72回

芥川賞、直木賞、世の中にはたくさんの出版に関する賞がございますが、このたび、西村書店では第26回梓会出版文化賞特別賞を受賞することができました。通常の賞は作品であったり、作家に与えられるものですが、この梓会出版文化賞は少し変わっていて、全国でユニークな出版活動をしている「出版社」に与えられるという日本でも唯一のものであります。

そもそも1916年に祖父が、新潟市で夜店で古本を並べて本屋をスタートさせた後、父が医学書を扱うようになり、私の代になってから、新潟大学の門前に医学書専門店を構えました。その当時においては洋書の需要が多く海外から直輸入を手掛けるようになりました。

それを機に海外の出版社と共同出版や翻訳の仕事が続けていますが、だんだんオリジナルの出版物も増えている昨今です。

当初から、自社の書店で医学生や先生がたの生の声をお聞きして企画の参考にさせていただきました。月日は流れましたが、その頃の医学生が、今では全国の第一線で活躍され、臨床のドクターになられたり、大学の教授などになっていることを思いますと、大変励みになっています。

現在では、医学書だけでなく、美術書、絵本、一般書も刊行しておりますが、どの分野においても出版の本質を考え求めて「古本になっても価値のある本」を出すようにしています。ジャンルに

こだわらない魅力ある出版をめざして、頑張っているつもりです。

出版を始めてから今年で30年、今年創立95周年を迎えます。その今年が目玉は、フランスでベストセラーになっている「オクサ・ポロック」(全6巻)というファンタジーノベルです。この第一巻めの発売は夏ごろに予定しています。フランスでは、あの「ハリー・ポッター」よりも面白い、と熱狂的なファンがいる、楽しみな作品です。

これからも分野を特定せず、広い視野を持って、挑戦して行きたいと思っています。

梓会出版文化賞は、出版梓会が1984年の公益法人化を機に創設した、日本で唯一の、出版社を対象とする賞である。原則として年間5点以上、10年間以上継続して刊行している主として中小の出版社が対象であり、刊行図書の自薦に基づき、優れた書籍出版、出版文化への貢献の見地から年に1回選考される。

出版報告

山田宏明・75回

私は有明台小、関屋中学、新潟高校を経て、1967年、慶應義塾大学文学部に入学、1971年に卒業して、毎日新聞社に入社、34年間、記者などをやり、2005年に社長室次長というポストで退社し、そのあとはベンチャー企業の役員などをしましたが、昨年秋からはフリーライターとして、書評、コラム、雑誌記事などを書いています。新潟高校時代は1年生の時8組、2年次は10組、3年は1組でした。

作品は、学生運動全盛期の69年ごろの慶応の三田キャンパスの人間模様と、不幸にして1973年に不慮の事故で24歳で他界し、“余りにも短い生涯”を閉じてしまった“悲運の美少女”の思い出などを書きました。

作品名は「美少女伝説-はかなく哀

切な生涯の物語」といいます。出版社は世界書院というところで、同社の「情況新書」の1冊として新書サイズで出ます。本名で書いています。定価は税込み1050円。224ページです。僕ら「団塊の世代」の青春記でもあります。3月25日から書店とアマゾンで発売されますが、今回の地震で若干の遅延は起きるかも知れませんが、同世代の方などにお読みいただければうれしいです。

高名な文芸評論家の秋山駿さんの「推薦の辞」をいただきました。



この度の震災で被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

当会の名簿を見ましても岩手、宮城、福島にお名前が見え、また東北青山同窓会の総会が中止になったと聞き、心配しております。

母校では生徒有志の発案で募金活動が行われ、職員を含め学校全体で54万円余りの募金が集まり、校長会を通じて寄付がなされました。また、県からの要請で、被災者の皆さんを2週間ほど青山会館（合宿所）にて受け入れたとのこと。その他、個人でもボランティア活動に参加したとの情報がたくさん寄せられています。

心を寄せあい、絆をより深め、一日も早い復興が叶いますことを祈念いたします。（編）

出版報告

田崎正巳・84回

平成20年発行の「東京会報」に私の「モンゴル国立大学着任報告」を寄稿させていただいてから、はや2年半がたちました。そのモンゴル生活を終えて、昨年11月末に日本に戻って参りました。

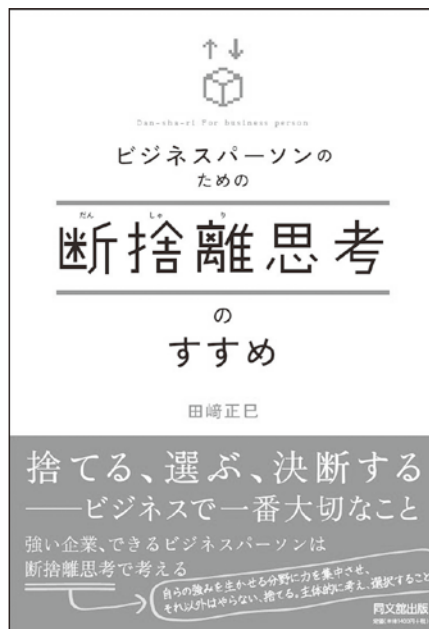
モンゴルでの生活は、良くも悪くも毎日が驚きの連続でした。50歳を過ぎても、日常生活が驚きの連続というのはなかなか刺激のある生活だと言えるでしょう。

モンゴルからの帰国とほぼ同時期に、「ビジネスパーソンのための断捨離思考のすすめ」（同文館出版）という本を上梓しましたので、この場を借りてご報告させていただきます。未来のために何を捨てるべきかを、企業経営及び個人の活動という視点で書いてます。

「戦略は捨てることなり」を具体的に言えば、限られた経営資源を集中させるために他はやらない、捨てるということです。自分の経験した様々な経営現場をもとに執筆しました。

2月には新潟日報にもご紹介頂きました。他の媒体とは違い、故郷の新聞は

個人的にとっても嬉しいことだと感じました。ビジネスに関わっている人や個人のキャリアを考えている人たちに、是非手にとって読んで頂きたいと願っています。



一橋大学卒業。味の素、ボストンコンサルティンググループ、外資系ファンド代表、ATカーニーなどを経て、経営コンサルティング会社STRパートナーズを設立、代表となる。前グロービス経営大学院教授、前モンゴル国立大学経済学部教授。



平成23年 新人歓迎会・講演会のご案内

日時

平成23年6月17日(金)
受付開始:午後6時
開会:午後6時30分

会費

一般:8,000円
女性:6,000円
大学生:3,000円
新人(119回生):2,000円

会場

ANAインターコンチネンタルホテル東京
港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111(代)

プログラム

◇新人歓迎会◇

旧3年の担任教諭がご出席予定です。

◇講演会◇

講師:猪口孝(70回)

◇懇親会◇

着席buffet

新人の皆様へ

新住所の届けのなかった方については自宅へご案内を送付しました。転居先のご連絡を事務局までお寄せ下さい。【事務局FAX.03-3423-1692、mail:kusakabe@moon.email.ne.jp】

講師紹介

猪口孝(70回)

政治学者・新潟県立大学学長・東京大学名誉教授・東京青山同窓会会長

【講演テーマ】「今こそ未来を見つめて前へ！」(仮題)

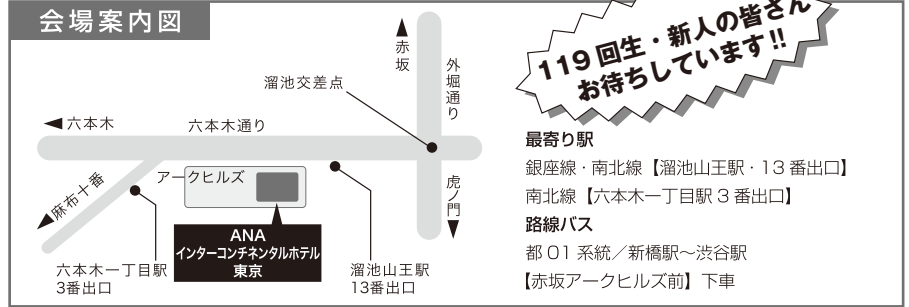
【略歴】

1944年1月 新潟市生まれ/1966年3月 東京大学卒業
上智大学、ジュネーブ大学、ハーバード大学、オーストラリア国立大学、東京大学、中央大学などに勤務、国際連合大学上級副学長、日本国際政治学会理事長などを経て現職。

『日本政治の特異と普遍』(NTT出版/2003年)、
『トンボとエダマメ論—何が夢をかなえるのか』(西村書店/2007年)など著書多数。



会場案内図



予告 本年度の総会は平成23年11月18日(金)の予定です。(幹事学年:84回)

同窓会のHP

◇青山同窓会◇

http://www.geocities.jp/niigata_aoyama/

◇東京青山同窓会◇

<http://www.tokyo-aoyama.org/>

■ 訃報 ■

H22年10月~H23年3月の期間に事務局にお知らせいただいた方々です。

- 岡四四亥(35回・H19.7.27) 大瀧芳彦(49回・H21.12.12)
- 布施栄信(41回・H22.10月) 溝部宰(50回・H22.8.15)
- 村井惟徳(42回・H20年) 栗山恵人(51回・H22.5.13)
- 小池光三(45回・H22年5月) 折戸善吾(66回・H22.1.12)
- 倉田四郎(47回・H22.9.5) 加門文隆(74回・H22.9.18)
- 吉田六郎(47回・H22年)

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

■ お詫びと訂正 ■

H21年度の年会費納入者一覧に64回・木山清様のお名前がございました。訂正のお知らせとともに心よりお詫び申し上げます。

偶数月第二火曜日の会

平成23年の予定 **6/14・10/11・12/13** (兼忘年会)

平成24年の予定 **2/14** (兼新年会)・**4/10・6/12・10/9・12/11** (兼忘年会)

毎回定時19時より◇日本海庄や(赤坂通店) 港区赤坂3-13-7 Tel:03-3586-5003

場所も時間も固定です。ふらりとお立ち寄りください。

東京から新潟市を応援しよう!

新潟市サポーターズ倶楽部が
会員を募集しています。

■申し込み先■

【新潟市東京事務所】

102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1

日本都市センター会館9階

TEL.03-5216-5133 FAX.03-5216-5134

ncsc@niigata-city-sc.jp

HPから入会できます。

<http://niigata-city-sc.jp/>

※入会金・年会費無料

住所リスト出カサービス

当同窓会では、皆さんからの情報を元に常に会員の住所録をコンピューターにて更新しております。「同期会をやってみたくけれど、皆の住所がわからない…。アイツは今どうしているんだろう?」などとお思いの方は事務局までお尋ね下さい。学年毎のリストを出力してお届けいたします。

ご希望の卒業回数を明記し、代表者の連絡先・送付先を書き添えて事務局宛FAX.をお送りください。

FAX. 03-3423-1692 (H下部・82回)

■住所リスト1学年/3000円■

平成22年度(H22.10.1~H23.9.30)年会費納入者一覧(H22.10.1~H23.4.11現在まで)

通6回(1名)	佐藤 恪	堀部 重明	皆川 重	丸山 一敏	菅原 一雄	井上 裕子	76回(25名)	81回(7名)	本間 裕基
関川 久子	大門 啓治	松尾 克己	嶺 國和	村木 利夫	鈴木 正俊	岩城 修平	青山 耕一	荒川 洋	松井 信彦
通8回(1名)	高橋 三男	宮田 庄之助	本井 孝至	山本 和親	関根 俊明	江口 則男	阿部 令一	江口 稔一	90回(8名)
佐藤 秋子	田中 浩次	山崎 良一	渡辺 千里	横山 修二	田辺 豊	大石 憲一	天野 直二	越野 昌芳	池田 美弥子
43回(2名)	永井 克孝	61回(39名)	63回(11名)	66回(9名)	土田 進	大滝 均	岩原 俊介	笹川 典男	小林 到
早船 春洋	細貝 実	浅見 昭夫	五十嵐 房子	石山 芳春	中村 重樹	糟谷 好邦	小田 高久	諏訪 正樹	小林 美奈子
渡辺 千尋	宗村 泰四郎	安宅 久憲	石渡 利男	川原 英夫	野川 晃一	工藤 義夫	尾張 明美	成海 孝二	斎藤 結花
44回(1名)	村山 保	阿部 亜生	市川 瑞夫	柴野 恵子	福島 治	解良 和郎	海部 和史	鰐 淵博	高橋 美和
斎藤 伸雄	山谷 皓栄	安藤 友憲	會 正之	中野 武管	三国 政勝	坂井 靖	加澤 正樹	82回(7名)	田辺 文
46回(2名)	59回(27名)	伊藤 英子	梶原 哲郎	二宮 靖彦	山宮 士郎	佐藤 俊栄	賀谷 彰夫	栄森 秀一	中村 泰
下 勇	阿部 進	大橋 恒夫	白倉 至	野水 宏樹	吉川 正孝	佐藤 信秋	後藤 徳広	清田 甚	森 豊
富所 強哉	石山 芳昌	金子 章	中村 道衛	林 武郎	渡辺 允雄	佐藤 浩	小松 澄子	小松 澄子	91回(1名)
47回(2名)	牛木 素吉郎	河井 良三	馬場 政説	半澤 弥栄子	渡部 美那実	島津 満里子	小宮山 信男	小亦 齐	磯部 剛
小杉 吉二郎	遠藤 欽蔵	川崎 榮一	彦坂 道迩	室由 紀子	71回(10名)	関川 修一	近藤 壽邦	齐藤 滋	92回(1名)
杉山 弘治	園城 英二	木村 政雄	村山 弘義	67回(13名)	遠藤 正男	高橋 保	指田 久美子	鈴木 雄一	前田 光俊
48回(1名)	笠井 駿	草間 光俊	山田 恵一	岡崎 功	太田 裕	高橋 信郎	太原 まゆみ	宮村 伸一	96回(1名)
石本 三郎	金巻 久	熊谷 隆幸	64回(32名)	小野 勝義	柄沢 卓	竹之内 明	田村 俊作	83回(5名)	浜田 恒平
49回(4名)	清野 孝一	小林 元雄	青野 啓	片山 忠一	小林 碧	土屋 彰義	長北 学	浅間 芳朗	97回(1名)
梶山 勝清	栗林 貞一	小山 達人	五十嵐 滋	川崎 昌彦	齊藤 誠	西田 百合子	西沢 芳樹	佐野 栄二	長倉 直美
仁保 武人	小池 和男	斉藤 伸昭	大石 正晃	齐藤 久美子	中村 英一	橋本 昭一郎	林 誠	高山 佳郎	98回(1名)
廣川 弘	河野 誠	佐藤 敏夫	太田 健治	佐々木 邦夫	西尾 レン	波多 腰明	古川 恒一	山口 虎彦	三沢 計治
舟崎 裕二郎	小城 一廣	杉山 由人	柄沢 茂	清水 雄伍	福井 明子	羽生 俊夫	細谷 洋一	横山 修	99回(1名)
50回(6名)	茂泉 喜彦	助川 孝雄	川崎 明	菅又 信	堀清 忠	平井 ゆき子	湯本 雅恵	84回(7名)	君和田 俊裕
上村 光司	洪水 幸三	関矢 和男	木山 清	高橋 三郎	松田 裕子	藤田 廣子	渡辺 博史	石塚 里栄子	102回(1名)
菊部 一郎	関野 光弘	高橋 龍威	桑野 光雄	寺井 宏	72回(16名)	古海 正子	渡辺 拓	太田 淑子	池田 哲郎
瀬谷 誠	高橋 晴夫	竹尾 昇	近藤 恭一	西章	宇田川 由美	本間 和彦	渡辺 雅夫	島津 孝	103回(1名)
寺田 秀夫	高橋 正利	田中 宣	坂井 俊一	松井 啓	大野 博	安田 雅子	77回(9名)	田中 昌夫	鷺尾 英一郎
時田 勇司	高山 昇二郎	田中 忠夫	坂井 敬	三堀 浩	小川 省三	山崎 久孝	石川 彰	野口 俊介	106回(1名)
村山 一	長島 一郎	田村 文男	坂本 昌弘	68回(16名)	金巻 裕史	若林 源基	片山 等	埴 昌樹	星野 善宣
51回(3名)	長橋 敏雄	鶴卷 正義	佐藤 章	安達 賢司	黒木 トシ子	渡辺 圭子	北村 一雄	星野 紹英	107回(1名)
北村 茂	納谷 喜郎	時岡 泰	椎名 睦郎	安達 雅巳	小嶋 修一	渡辺 洋一	桜井 宗一	85回(11名)	小橋川 嘉樹
千葉 繁太	花井 進	徳田 晋也	清水 裕子	小野 塚芳雄	小林 正昭	75回(28名)	佐藤 茂	荒井 裕子	112回(2名)
吉田 和三郎	藤原 幸雄	長沼 雄峰	清水 良男	上村 嶺子	近藤 正	有菌 順子	時岡 高志	今井 豊重	金澤 信太郎
52回(5名)	山田 和雄	中村 正春	須田 嶺治	草野 佐	齊藤 俊正	五十嵐 正	萩野 一廣	久保田 浩一	吉田 丈夫
浅田 稔	山田 陽一	長谷川 康一	高橋 正幸	小日向 信光	菅又 滋	石塚 文雄	長谷川 実	塩田 拓哉	113回(3名)
斎藤 茂美	吉田 陽吾	長谷部 良雄	田才 邦彦	近藤 和久	戸田 満弘	大野 敏雄	山田 民夫	杉林 亨	岡 嘉紀
斎藤 泰五郎	渡邊 敏男	花房 正光	田伏 正樹	近藤 貞雄	富田 由李	笠井 忠	78回(8名)	早福 博史	関 佑樹
廣川 勲	60回(26名)	藤田 太郎	田卷 亮	重野 康人	中地 光子	川上 滋	斎藤 庫之丞	田中 清	高野 祐一
渡邊 千春	阿部 和彦	丸山 通夫	田村 康一	高頭 勇	西村 正徳	北村 順作	志藤 洋子	田村 誠	115回(1名)
55回(2名)	安藤 正人	村岡 公夫	津野 慶浩	滝沢 猛	野村 耕治郎	小泉 慈行	鈴木 裕二	鈴木 裕二	野村 奈保子
千葉 繁治	池浦 厚司	村山 健	中川 透	長沼 誠二	古山 恒夫	小出 公平	瀧澤 道夫	村田 光男	116回(3名)
中村 正義	石黒 忠士	谷田 部信	中山 俣彦	渡邊 公夫	73回(6名)	小島 孝雄	村田 光男	山口 英	馬場 直也
56回(13名)	小川 秋実	山田 充	庭山 暢彦	渡辺 千艦	飯村 修	後藤 輝雄	79回(5名)	山口 英	86回(7名)
網干 道雄	金山 常吉	吉川 芳生	早川 周作	渡辺 泰彦	萱場 成郎	駒村 利晴	伊藤 毅	吉澤 哲彦	斎藤 健
飯島 昌彌	河田 鐵雄	62回(19名)	藤沢 靖郎	渡部 治子	田辺 研吉	鈴木 正夫	河正子	渡辺 茂	田中 利直
加藤 勝則	小池 健治	池田 昌之	藤田 昇三	69回(8名)	南波 祐二	清野 進	伊藤 毅	79回(5名)	乘兼 浩明
木村 直平	小出 直	石黒 恒	星 満	青木 利祐	山田 美成	白鳥 十三	志藤 洋子	伊藤 毅	林 光洋
近藤 源也	小林 吾郎	石田 寛	堀 健次	小黒 朋弘	両川 弘道	千田 武	川上 康夫	河正子	広田 淳子
高見 久義	近藤 純夫	植松 敬	榊 渥晴夫	佐藤 孝靖	74回(42名)	野崎 茂	川上 康夫	丸山 直昌	宮腰 重三郎
永井 喜八郎	坂口 英一	内山 隆之	65回(14名)	清水 一男	藍沢 幹人	橋爪 博美	丸山 直昌	吉井 正行	吉井 正行
中山 昭一	佐藤 孝	角家 孝之	浅田 和之	高木 敏之	青海 潔	服部 昭	吉田 英幸	87回(3名)	87回(3名)
堀藤 四郎	島田 馨	黒川 徹男	阿部 喜久子	中俣 達	安藤 京子	萬歳 信行	80回(8名)	石川 裕之	石川 裕之
松井 昭五	杉野 剛博	佐藤 勝彦	安藤 宜清	樋口 正臣	池 一	深沢 義和	位田 和彦	清水 忠明	清水 忠明
三崎 正一	高城 英雄	佐藤 武司	五十嵐 徹	村上 則彦	池田 正行	藤井 建一	長 正子	渡辺 政城	渡辺 政城
皆川 正男	田部 幸夫	鈴木 勉	川合 英次	70回(18名)	池田 裕	藤繩 利勝	小林 亮介	88回(2名)	88回(2名)
山田 陸男	徳田 浩一	曾我 健	小林 亘	池田 好正	石井 拓男	本田 晴久	関本 道章	今井 信一郎	今井 信一郎
58回(12名)	野村 保夫	高橋 健一	佐藤 貞夫	猪口 孝	石山 范	八木 健	高橋 直人	小竹 聡	小竹 聡
浅田 秀雄	長谷川 秀三	永井 梓	渋谷 皓	魚谷 茜	和泉 潤	山崎 信行	滝沢 正規	89回(4名)	89回(4名)
植村 末哉	廣瀬 欽次郎	藤原 岑子	高木 正道	川田 昌人	板井 勉	山根 英郎	丹羽 宏樹	岩野 尚子	岩野 尚子
片桐 欣哉	藤本 剛	帆 莉宏典	半澤 貢	斎藤 健輔	伊藤 宏	吉村 久雄	本間 英知	西巻 政信	西巻 政信

以上531名